

# 留學生新聞

令和2年(2020年)11月

## 1日號

第700号

毎月2回/1日・15日発行  
定価一部300円(税込)

敬請關注 留學生新聞 微信公眾號

留學生報



ID: liuexuoshengxinwen

政治經濟・社會文化・兩岸三地・留學生活・綜合情報

●発行所:メディアチャイナ株式会社 題字:張汀  
●平成元年(1989)4月26日第三種郵便物認可 ●郵便振替口座:00150-2-388724 1988年12月創刊  
〒130-0022 東京都墨田区江東橋 1-12-1-1003 TEL.03(6659)6212 FAX.03(6659)6213  
●http://www.mediachina.co.jp ●E-mail:mc@mediachina.co.jp 版權所有・禁止転載

### 中日双語刊



## コロナに負けるな!留学生の受験と学業を強力サポート中!! 立正大学大学院経営学研究科が2021年4月入学生を募集

留學生等外国籍者の間でも人気の高い、会計・税務やマーケティングなどの分野における専門教育で定評のある立正大学大学院経営学研究科(品川区大崎)が、2021年度も留學生の積極的な募集を行う。同研究科ではかねてより、學生目線で受験しやすく学びやすい環境の確保に腐心してきた。今年度からは成績優秀な留學生向けに2年次の学費を50%減免しているほか、教員が推薦する日本人學生による日本語サポート制度も継続し、好評を博している。来る2021年度入試においては、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、日本語試験の受験要件を弾力化するほか、研究科独自の奨学金など経済的支援もより一層充実させる。すでに実施中の施策を含め、同研究科の留學生向けサポート全般について、杉原周樹・経営学研究科長に話を聞いた。

今年度は新型コロナウイルス感染症が広がり、教育現場も前例のない状況に見舞われている。大学院としてどのような対応を行っているのか。



杉原研究科長:10月開始の第2期授業も、全学で原則オンライン授業を継続している。今後は学内外の感染状況を注視しながら、段階的に対面授業の実施やキャンパスに入講できる學生数の規模拡大を見込んでいます。研究室や図書館など學生の勉強に欠かせない学内施設も、人数の上限を設けるなど十分な感染症対策を採りながら、徐々に使用できるよう制限を緩和していく方向にある。

コロナ下では、留學生など學生の経済的な苦境にも社会の関心が高まっている。

杉原研究科長:オンライン授業一つとっても、全てをスマートフォンで視聴するのは無理があるが、自宅のインターネット環境がなければ授業の受講自体がままならないし、通信条件を整えるにも相応の費用が掛かる。本学ではこうした面を考慮し、今年度は大学院・学部・留學生を含む全學生向けに、一人5万円の進学支援奨学金を支給した。

今年度からスタートした学費減免など大学院留學生向けの様々な経済支援が好評だが、2021年度入學生向けの対応はど



### 《現役留學生が語る 大学院の留學生生活》 先生との距離感が近く 何でも相談できる環境

★立正大学大学院経営学研究科2年 谷井さん

うなるのか?

杉原研究科長:成績優秀な留學生を対象に2年次の学費を50%減免する措置は2021年度も継続される。真面目に勉強に励む人なら誰でも対象となり得る。また経営学研究科で独自に、テキストや資料購入の助けとなるよう、全留學生を対象とした奨学金も設けている。これらの他に、日本學生支援機構(JASSO)など政府の奨学金制度もあり、経済面での支援は全般的に充実していると言えるだろう。

今後コロナの影響が未知数だが、2021年度留學生入試はいかなる形で実施するのか?

杉原研究科長:現時点では当日試験会場に会場してもらい入試を行う予定だが、今後の感染状況を見極めつつ、状況次第ではオンライン環境での実施となる可能性もある。ただしいずれの場合でも例年通り、面接と筆記試験(専門科目・小論文)に相当する入試を行う方針に変更はない。オンライン入試となった場合には、受験生が不利益を被ることがないように十分に配慮していきたい。

すでにコロナの影響で、今年度最初の日本語試験(6月)や日本語能力試験(7月)が中止された。これに伴い、試験を受験できなかった留學生向けの対応は?

杉原研究科長:中止となった試験を受験予定だった留學生は、日本語試験(6月試験)は出願証明書、日本語能力試験(7月)の場合は受験票のコピーをそれぞれ提出してもらうことで、本研究科への出願を認める措置を決めた。また中国など海外の大学を卒業した學歴が出願要件を満たさかどうか不明な場合には、事前に関わり合せてほしい。本研究科では単に日本語や學歴のみで判断することなく、本人の學習意欲や能力を総合的に考慮した上で選考を行う。ぜひ奮って応募してもらいたい。

専門学校で学びましたが、当初はなかなか言いたいことを日本語で表現できず苦労しました。それでも努力を重ねた結果、最初の目標としていた日本語能力試験N1に合格でき、少しずつ日本でもやっていく自信が芽生えたのです。

中国は學歷社会なので大学院を修了しておくことが後々プラスになると考え、日本では修士課程への進学を志望していました。立正大学大学院のことは広告で知り、インターネットで調べてみると、雰囲気の良い印象を持ったため、中国の大学と同じ専攻であるマーケティングが学べる経営学研究科を受験することにしました。正直、入学できなかったら帰国も覚悟していたので、合格を知った時には天にも昇る気持ちでした。

以前、中国で勉強した内容は表面的な理論が中心でしたが、大学院のマーケティングは内容が濃密で奥が深いです。専門的な知識や用語に加え、キャリアが豊富な先生が、ご自身の実務経験に基づいてリアルな講義をしてくださるので、理解が深まります。今はブランド・マネジメントや地域ブランディングを中心に学んでおり、修士論文は「日本における中国産の農産物に関するイメージ形成」というテーマで取り組んでいるところです。中でもマスメディアの広告がブランドイメージにもたらす影響に関心を持っており、自分なりの観点を論文で表現していきたいと思っています。

立正大学に入学して一番良かったと感じるのは、普段から先生との距離感が近く、悩み事を何でも相談できることです。私は外国人なので研究発表等なかなか思い通りにいかないこともありますが、先生は私が抱える日本語面でのハンディを充分理解し、修士論文の中の中間発表会の前には随時、適切なアドバイスをしてくださり、とても助かりました。また1年次から履歷書や自己PRの作成方法を指導してもらったり、就活対応も心強いです。今年度はコロナの影響で、授業や就活指導もオンラインが中心となり、就活はこれからが正念場ですが、卒業したら日本で就職して経験を積み、将来中国で広告に関連した仕事に就きたいので、残りの學生生活で内定を獲得できるように頑張ります。

これから大学院への進学を目指す後輩の皆さんには、何事も自分に自信をもって取り組んでほしいです。私も日本へ来てからいろいろな壁にぶつかり、悩むことも多かったです。そんな時は家族や友人の励ましで乗り越えながら、ポジティブな気持ちで大切に日々過ごしてきました。前向きに、あきらめないという気持ちで頑張れば、いつの日か皆さんの中で確かな自信となって花開くでしょう。

(日本語2面に入学試験と留學生生活に関するQ&Rを掲載)